※令和４年度以降入学生用

学校番号	1013

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位数	２単位	年次	３年後期
使用教科書							
副教材等	世界史問題集						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・広い視野を持って世界の諸問題について考える。
・問題集を用いた各時代のさまざまな演習で入試に必要な基礎的な力を養う。
・世界史的な視点を持って自ら主体的に考える。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
世界の歴史における事象の意味や意義、特色などを、地域や年代の関連、現代とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、効果的に説明・議論できる力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史を学ぶなかで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚と、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界各国の歴史がうまれたその地域性に注目し、また他地域との関連を見出し、理解を深めている。 世界史に関する基本的な事柄や歴史的なながれを捉える基本的な概念を理解し、その知識を身につけている。	革命や戦争など、さまざまな歴史的事象をもたらした要因について、問いを通して思考を深めて論理的に表現することができている。 世界史に関わる諸資料を読み込んで、有用な情報を世界史の理解に効果的に役立てている。	左記の学びを通じて、世界の歴史について総括的に考察し、未来についての「問い」をたて、自らが望ましいと考える理想的な世界を考えている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編	・古代文明の歴史的特質 ・東アジア世界と中央ユーラシアの歴史的特質 ・南アジアと東南アジアの歴史的特質 ・西アジアと地中海周辺の歴史的特質	文明の成立の過程を人類の祖先から連続的に理解し、全体像をとらえて設問に答えることができる。中央ユーラシアと東アジア世界周辺地域の歴史の設問にも答えることができる。 西アジアと地中海、・イスラームの誕生とヨーロッパ世界の形成についてその過程を理解し、設問に答えることができる。	授業中の問題演習の取り組み、小テスト、定期テストで評価する	問いを与え、グループで討議・発表して評価。問題演習や定期テストでも評価する	レポート等の提出物やノートで評価する
	・ユーラシア大交流圏の成立 ・アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 ・主権国家体制の成立と交易の拡大	イスラーム教の伝播や中世ヨーロッパの変容について、またモンゴル帝国の成立についてその流れを体系的に理解し、設問に答えることができる。 大交易の時代、アジア諸帝国の成立、近世ヨーロッパ世界の動向について、様々な資料やデータに基づいて考察し、文章で答えることができる。周辺地域に与えた影響にも着目し、設問に答えることができる。			
諸地域の結合・変容、地球世界の課題	・環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 ・イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 ・世界の一体化の進展とアジアの変容 ・世界の一体化の完成とその影響 ・世界大戦の時代 ・戦後の国際秩序と冷戦	産業革命の過程とそれに基づくイギリスの優位、欧米国民国家の形成、アジア地域の動揺についてのながれを理解した上で設問に答えることができる。 また、帝国主義とアジアの民族運動、第１次世界大戦と第２次世界大戦、さらに両大戦後の新しい国際秩序につて、相互に関連させて体系的に理解し、設問に答えることができる。			
	・冷戦の展開と平和の模索 ・グローバル化する国際経済とその課題 ・情報と科学技術によって結びつく世界	冷戦と第三世界の台頭、冷戦の終結と今日の世界について、その流れと時代の転換を、様々な資料やデータから考察し、関連する設問に答えることができる。 原始・古代から現代に至る歴史全般を体系的にとらえ、自分なりの歴史観をもってみずから自己の関心に応じたテーマを設定し、探究・発表することができる。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度